



Title	デンマーク語の副詞altsåの心態詞的用法について
Author(s)	新谷, 俊裕
Citation	IDUN –北欧研究–. 2007, 17, p. 21-46
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95571
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

デンマーク語の副詞 *altså* の心態詞的用法について

新谷 俊裕

1. はじめに

2003 年から 2005 年にかけて新しい、全 6 巻という比較的大型のデンマーク語 - デンマーク語辞典 DDO¹ こと *Den Danske Ordbog* がデンマーク国語・文学協会 (Det Danske Sprog- og Litteraturselskab) によって出版された。全 28 巻の ODS と比べるとかなりコンパクトであるが、ODS が 1700 年から 1955 年までのデンマーク語を対象にしているのに対して、DDO は 20 世紀後半、特に 1983 年から 1992 年までのデンマーク語を対象にしていることや、単語によっては意味や用法に関する詳細な記述があり、また全般的に見やすいことなどから、非常に有益な辞典である。しかしながら、筆者が拙稿「デンマーク語の副詞 *ellers* の意味と用法」(2001 年) で扱った *ellers* の心態詞的用法² のうちの、例えば次の意味・用法は DDO には見られない。

(H) 【*ellers* によって話し手は、聞き手の先行の発話の内容の真実性は受け入れるもの、自分の発話の内容から、ふつうは先行の発話の内容の逆が期待されるというシグナルを送り、そして聞き手から聞き手の発話の内容に対する説明を促すという機能において】しかし、…なんだけど (なあ)。(どうして、あなたはそういうことを言うのですか [ふつう強勢がない] 中域にくる) (新谷 2001 : 42)

あるいは、DDO の *ellers* の項の 4 の 3 つ目の用法

- bruges for at udtrykke skepsis el. forbehold □ *Hun ser nuellers ret ung ud til at sidde sådan en topstilling.* (DDO bd.2: 48)

懷疑あるいは保留を表すのに用いられる □ 彼女はそんなトップの地位にいるにはかなり若いのだがなあ。

が筆者の (H) に相当するのかもしれないが、それでも DDO の 4 の 3 は (H) の一部にしかすぎず、(H) の重要な要素である談話の概念が抜け落ちている。

また、例えば、時の副詞 *nu* には中域で強勢なしに用いられ、話し手の心的態度を表す心態詞としての用法がある。

A: Du har vel som sædvanlig ikke tid.

B: Jeg har nu ikke så travlt i dag. (TA 90)

<A: あなたはいつものように時間がないのでしょうかね。>

<B: 私は今日はそれほど忙しくはないですよ。>

この nu の用法に相当すると思われるものが DDO の nu の項の 2 の説明にある。

- bruges ved angivelse af at noget til en vis grad modsiger det forventede el.
det netop sagte □ *nogen furie er hun nu heller ikke. Faktisk er hun sød og rar. / Nu er det altså ikke husejerne, der ligger på knæ for at få højere ejendomsvurderinger.* (DDO bd.4: 288)

期待されたことあるいは直前に言われたことに何かがある程度矛盾することを示すのに用いられる □ 鬼女なんかでも彼女はないのだよ。
実際、彼女は親切で良い人だ。／不動産評価額の上昇を懇願しているのは実際には自家所有者たちではないのだが。

このように nu のひとつの意味・用法を示す 2 つの例文中に、中域に現れる心態詞的用法と前域に現れる非心態詞的用法が混在していることからも、DDO は心態詞あるいは副詞の心態詞的用法を副詞の他の用法と区別することはまったくしていない。つまり心態詞の存在が認識されていないのであろう。したがって心態詞の記述も大いに不足していると言えよう。その一例として本稿では心態詞 *altså* の意味・用法を考察し、さらに中域における位置についても考察する。

2. *altså* の本来の副詞としての意味・用法

DDO が *altså* の本来の副詞としての意味・用法を詳述している (DDO bd.1: 162).

- (1) (i) 理論的帰結あるいは因果関係を示すのに用いられる；同義語 *ergo, følgelig, således*. 日本語訳：したがって、それゆえに、すなわち、つまり。³

1. Han kunne også bøje hovedet, så hagen rørte brystet. Altså var han ikke nakkestiv og havde ikke meningitis.

〈彼はあごが胸につくように首を曲げることもできた。それゆえに、彼は頑硬直になっておらず、髄膜炎ではなかった。〉

2. En anelse varme var der stadig i ham. Han var altså ikke død.

〈ほんの少しだが温かさが彼の身体に残っていた。彼はしたがって死んでいなかつた。〉

- (ii) 前提条件から判断して何かが当てはまると結論づけるのに用いられる（特に話すことばにおいて）。日本語訳：それでは、それじゃあ、では、そうすると。

3. Så er vi altså kærester? havde Kathrine hvisket. Han svarede ved at kysse hende endnu en gang.

〈それじゃあ私たちは恋人同士なのね、とカトリーネはささやいた。彼は答えに彼女にもう一度キスをした。〉

- (iii) 先行するテーマをまとめ、あるいは本来のテーマを再び取り上げるのに用いられる（特に話しことばにおいて）。日本語訳：つまり、ようするに。
4. Nå, men som sagt var jeg altså inde og snakke med studievejlederen.⁴
 ＜なるほど、でも言ったように私はようするにアカデミック・アドバイザーの所に行って話して来たのです。＞
- (2) (i) 先行する内容を補足説明するのに用いられる；med andre ord, det vil sige と比較。日本語訳：すなわち、つまり、言い換えれば。
5. Hvis kortet viser Antarktis – altså landområdet ved Sydpolen – er det meget mystisk.
 ＜もしもその地図が南極地方、すなわち南極周辺の地域を示しているのならば、とても不思議だ。＞
- (ii) 先行する内容をいつそう明確に規定する、あるいは訂正するのに用いられる（特に話しことばにおいて）。日本語訳：つまり；（言い直し）えー。
6. Jeg har fået det indtryk, at du virker som en rød klud på en tyr. Altså ikke personligt, men dit firma.
 ＜私は、あなたが人を激怒させるような印象を受けています。えー、あなた個人のことではなくて、あなたの会社のことですが。＞
- (3) (ii) 明らかな前提のもとに、同義語 vel at mærke, forstås. 日本語訳：すなわち、（つまり）正確に言えば、…ですが。
7. Det er en drøm, der pludselig går i opfyldelse. Hvis jeg altså virkelig er gravid, tilføjede hun.
 ＜それは突然実現する夢です。もし私が本当に妊娠しているならばですが、と彼女は付け加えた。＞
- (4) (i) 間投詞的に用いられて、いらだち、非難、没頭など様々な感情を表す（特に話しことばにおいて）。日本語訳：あのねえ！、いいかい！、いややはや！、やれやれ！、これは驚いた！
8. Nej, altså! Begynder du nu også ...?
 ＜おいおい、あのなあ！君も始めるのかい…。＞
9. Eh altså, hvor er det spændende!
 ＜えっ、驚いた！なんてすごいんだろう！＞

以上、altså の (1), (2), (3) の意味・用法から、altså は基本的には前文の内容を

受ける「接続」の副詞であることがわかる。

3. *altså* の心態詞としての意味・用法

3.1. Eva Skafte Jensen の分析

Eva Skafte Jensen は 2000 年の Ph.d.論文において副詞のふつうの意味・用法から心態詞的用法が発展していく様を歴史的に分析しているが、その中で *altså* の心態詞的意味について以下のように分析している。

本来の副詞としての *altså* は、§2 で見たように、前文の内容を要約する機能を持つ接続の副詞であり、*følgelig* <したがって、つまり> や *således* <そういうわけで、つまり> などで言い換えることができ、したがって *altså* それ自体が「決定的で、重大な論拠 (det afgørende vægtige argument)」(Jensen 2000: 68) となっている。

そしてそこから発展して、*altså* 自体が「重大性 (vægtighed)」と「当意即妙 (slagfærdighed)」と関連付けられるようになり、したがって「簡潔な的確さを表す (prægnansangiver)」ようになったとしている (Jensen 2000: 68). そしてその場合、この「簡潔な的確さ (prægnansen)」は先行する文によって客観的に証明されるのではなく、主観的に表明されていると言う (Jensen 2000: 72).

jeg erklærer hermed (i og med *altså*) at det propositionelle indhold er vægtigt og prægnant (Jensen 2000: 68).

私はここに (*altså* と言うことによって) 命題内容が重大で簡潔で的確であることを表明する

つまり、Jensen が示す次の例文 10-11⁵ は 10'-12' のように書き換えることができると言う (Jensen 2000: 72).

10. Hvor er den **altså** flot!

11. Jeg gider **altså** ikke mere!

12. Nu skal du **altså** holde op!

10'. Jeg erklærer (**hermed**) at jeg synes den er flot.

<私はそれがかっこいいと思うと、私は（ここに）表明する。>

11'. Jeg erklærer (**hermed**) at jeg ikke gider mere.

<私はこれ以上やりたくない、私は（ここに）表明する。>

12'. Jeg erklærer (**hermed**) at jeg vil have du holder op.

<わたしはあなたにやめてもらいたいと、私は（ここに）表明する。>

つまり、例文 10, 11, 12 の意味は次のようになる。

10. <それはなんてかっこいいんでしょう！>

11. <私はこれ以上やりたくないんだ！>

12. <もうやめてくださいよ！>

客観的意味を表す、本来の副詞としての *altså* が前域 (F) と中域の副詞的語句領域 (SA⁶) の両方に置かれるのに対して、この主観的意味を表す *altså* は中域の副詞的語句領域にしか置かれないと言う (Jensen 2000: 72). つまり、この *altså* の意味・用法は本稿の筆者の言う *altså* の心態詞的意味・用法である。

例文 10, 11, 12 は上記のように、同氏の説明によると 3つとも一律に *jeg erklærer (hermed) at ...* で説明されており、母語話者にはその説明で十分であるのかも知れないが、非母語話者である筆者には 10, 11, 12 の *altså* には何がしかのニュアンスの違いがあるように思えてならないのだが、*jeg erklærer (hermed) at ...* の説明だけではそのニュアンスの違いが明らかになってこないよう思える。以下ではそのニュアンスの違いを見てみよう。

3. 2. *altså* の心態詞的用法 1 :「強調」する気持ちを表す機能

DDO の *altså* の記述のうち § 2 で言及しなかった項目がひとつだけある。

- (5) (i) 何かがある特定の状況にあることを強調するのに用いられる (特に話しことばにおいて). (DDO bd.1: 162) [下線は筆者]

- 13 Nej, Steen – jeg kan altså ikke lide at blive fotograferet!
 <いいいや、ステイーン。僕は写真を撮られるのが好きじゃないんだよ。>
 14 Ja, det må du altså undskyldne.
 <そうですね、申し訳ありませんでした。>

「強調する」ということから <ほんとうに> ということばを加えてそれぞれ下記のようにすることも考えられる。

13. <いいや、ステイーン。僕は写真を撮られるのがほんとうに好きじゃないんだよ。>

14. <そうですね、ほんとうに申し訳ありませんでした。>

そうすると DER と DES の“(強調して) really”, DTS の “wirklich (*det kan du altså ikke tillade dig wirklich, das kannst du dir nicht leisten*)” [デンマーク語の例文の日本語訳：<それは君はほんとうにやってはいけないよ。>] に相当することになる。

3. 3. *altså* の心態詞的用法 2 :「驚き」, 「いらだち」, 「とがめ」等の主観的感情を表す機能

altså は、§ 3.2 の「強調」「ほんとうに」に似たものとして、「驚き」等の話し手の主観的感情を表すこともある。§ 3.1 の例文 10 は以下のように訳すことができるであろうか。

10 Hvor er den altså flot! <それはまあなんとかこういいんでしょう！>

DTS に *nu tier du altså stille!* Jetzt schweigst du aber! とあり、*altså* にはドイツ語の *aber* が対応している。⁷ そしてこの *aber* は「平叙文・要求文などに用いられ、期待に反するその場の状況についての話し手の遺憾・不満・不快」や「異議・非難などの気持ちを反映して、文中でアクセントなし」(岩崎 1998: 4) の意味・用法であり、デンマーク語の *altså* もドイツ語の *aber* のこの意味・用法と類似のものであると考えられ、話し手の遺憾・不満・不快や苛立ちの気持ちを反映している。また、中域に置かれ、強勢がない点⁸ もドイツ語の *aber* に似ている。

15. Nu 'tier du ,altså 'stille!

<さあ、いいかげんに黙れ！>

同様に

16. Det 'har jeg ,altså 'sagt flere 'gange.⁹

<それは何度も言ったけれども..> [苛立ち]

<それは何度も言ったでしょうが.> [咎め]

17. Nu 'må vi ,altså have 'lavet det 'køleskab!

<もういいかげんあの冷蔵庫を直さなくては！>

18. De 'kører ,altså så 'hurtigt, de 'unge 'mennesker.

<ほんとうに、もうすごくスピードを出すんだから、若いやつらは..>

altså が話し手の遺憾、苛立ち等の気持ちを反映するドイツ語の *aber* に似ていることから、例文 10 の驚きを表す *altså* も「感嘆文中に用いられ、人・物事などに關して、事の意外さについて話し手の驚きを反映」する(岩崎 1998: 3-4) ドイツ語の *aber*、あるいは、「(話し手の主觀的心情を反映して)((驚きを表す))」*aber*(独和大: 10) に相当すると言えるであろう。

3. 4. *altså* の心態詞的用法 3 : 「聞き手に計画の変更を促そうとする」機能

altså の心態詞的用法の 3 つ目の意味・用法として Andersen (1982: 91) の指摘するものが挙げられる。

19. A: Jeg tager til København i morgen.

B: Birgit kommer altså hjem.

<A: 明日コペンハーゲンに行くよ。>

<B: Birgit が帰ってくるんですけどね。>

20. A: Jeg vil gerne have en kop kaffe.

B: Den er altså ikke varm længere.

<A: コーヒーが一杯ほしいのですが。>

<B: もう熱くないんですけどね。>

21. A: Vi skal også have en liter mælk.
 B: Jeg har altså allerede købt mælk.
 <A: 1リットルの牛乳も要りますよ。>
 <B: 牛乳をもうすでに買ってあるんですけどね。>
22. A: Jeg gad vide om vi har købt øller nok.
 B: Jeg har altså næsten en hel kasse øl hjemme.
 <A: 十分な数のビールを買ったかどうか知りたいものだ。>
 <B: うちにほぼケース一杯のビールがあるんですけどね。>
23. A: Jeg ved ikke om den sidste bus er gået.
 B: Jeg kan altså godt have en til i min bil.
 <A: 最終バスが行ったかどうかわかりません。>
 <B: 僕の車にもう一人乗れる場所があるんですけどね。>

Andersen の説明によると、altså は、上記例文中の B の発話中の命題内容が先行の発話をした A にとって関連のある可能性があるというシグナルを送る。そして A の発話は常に計画、未来の行動の可能性を示すか、示唆しており、A にこの計画の変更をさせる可能性のある情報として B の発話中の命題内容が述べられていると言う。¹⁰ すなわち B は発話に altså を挿入することによって A の持つ計画の変更をうながそうと試みていることになる。

3. 5. altså の「話し手志向」の心態詞的用法と「聞き手志向」の心態詞的用法

Davidson-Nielsen (1993) は 9 個の 1 音節語の心態詞¹¹ sgu, nok, vel, vist, da, dog, jo, nu, skam を「話し手志向」の心態詞 (sgu, nok, vel, vist) と「聞き手志向」の心態詞 (da, dog, jo, nu, skam) とに二分している。

Da, jo, nu og skam ... er primært orienteret mod modtageren i den forstand at de afspejler afsenderens reaktion på hvad han/hun anser for at være modtagerens opfattelse af den situation en ytring beskriver. Denne modtagerorientering kan illustreres med følgende eksempel:

John er *da/jo/nu/skam* i London. (Davidson-Nielsen 1993: 3)

da, jo, nu, skam は、… これらが、発話が記述する状況に関する聞き手の理解であると話し手 (= 発信者) が見なしていることに対する話し手の反応を反映しているという意味において、第一義的に聞き手 (= 受信者)に志向されている。この聞き手志向は以下の文によって例証することができる。

<John はロンドンにいるでしょう！/いますよね/いるんですよ/実はいます。>¹²

Nok, vel og vist ... er derimod primært orienteret mod afsenderen i den forstand at de afspejler afsenderens opfattelse af, eller holdning til, sin egen viden om den beskrevne situation:

John er *vel/vist/nok* i London. (Davidson-Nielsen 1993: 3)
nok, vel, vist は、…これらが、記述されている状況に関する話し手（＝発信者）自身の知識に対する理解、あるいは態度を反映しているという意味において、第一義的に話し手（＝送信者）に志向されている：

〈John はロンドンにいるでしょう？/確かにいるでしょう/(たぶん)いるでしょう.〉¹³

そして残る sgu と dog は、時には“志向”に関して中立である場合もあるが、

24. Det er sgu uheldigt! <それはまあ不運なことよ！>

25. Det er dog uheldigt! <それはまあ不運なことよ！>

sgu は「話し手志向」であり、dog は「聞き手志向」であると言う (Davidson-Nielsen 1993: 3 - 4).¹⁴

26. Du er sgu blevet fodsportsmand. <君はハイカーになったんだな！>

27. Hør mig dog til ende! <私の言うことを最後まで聞きなさい！>

「話し手志向」の心態詞は英語に訳すと I suppose, I dare say, I think, I believe, I am sure, I'm damned if 等々となり、「聞き手志向」の心態詞は You see, You know 等々になると言う (Davidson-Nielsen 1993: 3 - 4).

この分類に従うと、*altså* の § 3.3 の「遺憾・不満・不快等」の意味・用法 (§ 3.3.a とする) は「話し手志向」であり、一方、例文 27 の「咎め」を表す dog のように § 3.3 の「異議・非難・咎め等」の意味・用法 (§ 3.3.b とする) は「聞き手志向」であり、§ 3.4 の意味・用法も「聞き手志向」であると言えよう。加えて「強調」を表す § 3.2 の意味・用法は例文 24, 25 の sgu, dog 同様、“志向”に関しては中立であると言えよう。

3. 6. 心態詞的用法から間投詞的用法へ

Jensen (2000: 72) は *altså* が心態詞的用法から間投詞的用法へと発展した可能性を指摘している。つまり、例文 10, 11, 12 は次のような様相を呈する可能性があると言う。

10". Altså, hvor er den flot!

〈なんてまあ、それはかっこいいんでしょう！>

11". Altså, jeg gider ikke mere!.

〈いいかい、私はこれ以上やりたくないんだ！>

12". Altså, nu skal du holde op!

〈あのねえ、もうやめなさい！>

すなわち、これは § 2 で見た DDO の (4) (i) に相当するものである。

4. 心態詞 *altså* の中域における位置

これまで見てきたことから、*altså* は本来の副詞として用いられる場合には前域と中域の両方に現れ得るが、心態詞的用法においては中域にしか現れないことがわかる。ところで、中域の副詞的語句領域には様々な範疇の副詞的語句が置かれるが、これらの副詞的語句が同時に現われるとき心態詞的用法の *altså* などの位置に置かれるのであろうか。以下に考察する。

4.1. 中域における心態詞の位置

中域の副詞的語句領域には様々な範疇の副詞的語句が現われるが、否定辞を境として、その左側には命題に含まれないもの (non-propositionel) が、右側には命題に含まれるもの (propositionel) が置かれるというのが一般的理解のようである (Jensen 2000: 198-199):¹⁵

中域の副詞的語句領域の語順モデル 1

命題に含まれないもの / 否定辞 / 命題に含まれるもの

つまり、中域の副詞的語句領域においては否定辞の左側には命題よりも上位概念のものが置かれるわけである。そして、命題に含まれないものは、命題の現実度や価値に関する話し手の評価・判断を表す話法詞 (modalord, 独 *Modalwort*)¹⁶ と話し手の心的態度を表す心態詞 (modalpartikel, 独 *Abtönungspartikel/modalpartikel*) の 2 種類に大別できる。話法詞は前域にも中域にも置かれるのに対して心態詞は中域にしか置かれないことからもわかるように、心態詞のほうが話法詞よりも上位に位置するものと考えられることより、以下のように中域の否定辞の左側にあって、心態詞のほうが話法詞よりも左側に置かれると予測され得る。

中域の副詞的語句領域の語順モデル 2

心態詞 / 話法詞 / 否定辞 / 命題に含まれるもの

4.2. 心態詞の相互語順

§ 3.5 で言及した Davidsen-Nielsen (1993: 7) は 1 音節語の心態詞 *sgu*, *nok*, *vel*, *vist*, *da*, *dog*, *jo*, *nu*, *skam* の語順を以下のようだと言う：

中域の副詞的語句領域の語順モデル 3

話し手志向 ¹⁷ <i>sgu</i>	/	聞き手志向 <i>da, dog, jo, nu, skam</i> ¹⁸	/	話し手志向 <i>nok, vel, vist</i> ¹⁹
-----------------------------------	---	---	---	--

中域の副詞的語句領域の語順モデル 2 に語順モデル 3 を組み込むと下の語順モデル 4 が得られる：

中域の副詞的語句領域の語順モデル 4						
①	/	②	/	③	/	④
話し手志向 sgu	/	聞き手志向 da, dog, jo, nu, skam	/	話し手志向 nok, vel, vist	/	話法詞 否否定辭 命題に 含まれ るもの

さて、心態詞としての *altså* の置かれる位置はどこであろうか。機能の点から見ると、「志向」に関して中立の §3.2 の *altså* の位置はさておくとしても、「話し手志向」の心態詞である §3.3.a の *altså* は上記の語順モデル 4 の③の位置、すなわち「聞き手志向」の心態詞の後ろで話法詞の前に置かれ、一方、「聞き手志向」の心態詞である §3.3.b と §3.4 の *altså* は②の位置、すなわち *sgu* の後ろで「話し手志向」の心態詞の前に置かれることが予測される。

4.3. 「話し手志向」の心態詞 *altså* の語順に関するテスト

§3.3.a の例文 15 と 18において *altså* の前後に ① *sgu*, ② 「聞き手志向」の心態詞 *da, dog, jo, nu, skam*, ③ 「話し手志向」の心態詞 *nok, vel, vist*, ④ 話法詞を挿入して文が成立するかどうかをテストした。²⁰ 意味・機能の点から「話し手志向」の心態詞 *altså* とは共起できないものが予測されるが、それらは当然のことながら *altså* の前にも後ろにも置くことができないもので、以下では基本的にはリストアップしない。つまり、例えば *vel* が *altså* の前に置かれている例文も、後ろに置かれている例文も示されていない場合には、当該の例文においては *vel* と *altså* が共起できないということになろう。なお、以下に示す例文の左側に付す星印 (*) は同文が非文であることを示し、(?) は同文が可能かどうか疑わしいことを示す。

- 15. Nu tier du *altså* stille!
sgu / altså : *altså / sgu*
 - 28. Nu tier du *sgu altså* stille!
 - 29. *Nu tier du *altså sgu* stille!
- 「聞き手志向」の心態詞 / *altså* : *altså / 「聞き手志向」の心態詞*
- 30. Nu tier du *jo altså* stille!
 - 31. *Nu tier du *altså jo* stille!
 - 32. Nu tier du **da** *altså* stille!
 - 33. *Nu tier du *altså da* stille!

34. Nu tier du **nu altså** stille!
35. *Nu tier du **altså nu** stille!
36. Nu tier du **dog altså** stille!
37. *Nu tier du **altså dog** stille!

「話し手志向」の心態詞 / altså : altså / 「話し手志向」の心態詞

38. *Nu tier du **nok altså** stille!
39. *Nu tier du **altså nok** stille!
40. *Nu tier du **vel altså** stille!
41. *Nu tier du **altså vel** stille!
42. *Nu tier du **vist altså** stille!
43. *Nu tier du **altså vist** stille!

話法詞 / altså : altså / 話法詞

44. *Nu tier du **desværre altså** stille!
45. Nu tier du **altså desværre** stille!
46. *Nu tier du **sikkert altså** stille!
47. Nu tier du **altså sikkert** stille!
48. *Nu tier du **sandsynligvis altså** stille!
49. Nu tier du **altså sandsynligvis** stille!
50. *Nu tier du **måske altså** stille!
51. Nu tier du **altså måske** stille!
52. *Nu tier du **bestemt altså** stille!
53. Nu tier du **altså bestemt** stille!

18. De kører altså så hurtigt, de unge mennesker!

sgu / altså : altså / sgu

54. De kører **sgu altså** så hurtigt, de unge mennesker!
55. De kører **altså sgu** så hurtigt, de unge mennesker!

「聞き手志向」の心態詞 / altså : altså / 「聞き手志向」の心態詞

56. De kører **jo altså** så hurtigt, de unge mennesker!
57. ?De kører **altså jo** så hurtigt, de unge mennesker!
58. De kører **da altså** så hurtigt, de unge mennesker!
59. ?De kører **altså da** så hurtigt, de unge mennesker!
60. De kører **nu altså** så hurtigt, de unge mennesker!
61. De kører **altså nu** så hurtigt, de unge mennesker!
62. De kører **dog altså** så hurtigt, de unge mennesker!
63. *De kører **altså dog** så hurtigt, de unge mennesker!
64. ?De kører **skam altså** så hurtigt, de unge mennesker!
65. ?De kører **altså skam** så hurtigt, de unge mennesker!

「話し手志向」の心態詞 / altså : altså / 「話し手志向」の心態詞

66. *De kører **nok** altså så hurtigt, de unge mennesker!
67. ?De kører altså **nok** så hurtigt, de unge mennesker!
68. De kører **vel** altså så hurtigt, de unge mennesker!
69. *De kører altså **vel** så hurtigt, de unge mennesker!
70. De kører **vist** altså så hurtigt, de unge mennesker!
71. *De kører altså **vist** så hurtigt, de unge mennesker!

話法詞 / altså : altså / 話法詞

72. ?De kører **desværre** altså så hurtigt, de unge mennesker!
73. De kører altså **desværre** så hurtigt, de unge mennesker!
74. *De kører **sikkert** altså så hurtigt, de unge mennesker!
75. De kører altså **sikkert** så hurtigt, de unge mennesker!
76. *De kører **sandsynligvis** altså så hurtigt, de unge mennesker!
77. De kører altså **sandsynligvis** så hurtigt, de unge mennesker!
78. *De kører **måske** altså så hurtigt, de unge mennesker!
79. De kører altså **måske** så hurtigt, de unge mennesker!
80. *De kører **bestemt** altså så hurtigt, de unge mennesker!
81. De kører altså **bestemt** så hurtigt, de unge mennesker!

以上のことから、(?) の付いた可能かどうか疑わしい例文を除外すると、例文 55 と 61 という例外はあるものの、「話し手志向」の心態詞である例文 15 と 18 の altså は § 4.2 の予測通り、語順モデル 4 の②の「聞き手志向」の心態詞の後ろで、④話法詞の前である③の位置に現れることがわかる。しかも同じ「話し手志向」の心態詞 vist や vel よりも後ろに置かれるようである。

4.4. 「聞き手志向」の心態詞 altså の語順に関するテスト

§ 3.4 にある例文 19 と 20において altså の前後に ① sgu, ②「聞き手志向」の心態詞 da, dog, jo, nu, skam, ③「話し手志向」の心態詞 nok, vel, vist, ④ 話法詞を挿入して文が成立するかどうかをテストした。

19. A: Jeg tager til København i morgen.

B: Birgit kommer altså hjem.

sgu / altså : altså / sgu

82. B: Birgit kommer **sgu** altså hjem.
83. B: *Birgit kommer altså **sgu** hjem.

「聞き手志向」の心態詞 / altså : altså / 「聞き手志向」の心態詞

84. B: Birgit kommer **jo** altså hjem.
85. B: *Birgit kommer altså **jo** hjem.
86. B: ?Birgit kommer **nu** altså hjem.
87. B: *Birgit kommer altså **nu** hjem.
88. B: ?Birgit kommer **dog** altså hjem.
89. B: *Birgit kommer altså **dog** hjem.

「話し手志向」の心態詞 / altså : altså / 「話し手志向」の心態詞

90. B: *Birgit kommer **nok** altså hjem.
91. B: Birgit kommer altså **nok** hjem.
92. B: Birgit kommer **vel** altså hjem.
93. B: *Birgit kommer altså **vel** hjem.
94. B: Birgit kommer **vist** altså hjem.
95. B: *Birgit kommer altså **vist** hjem.

話法詞 / altså : altså / 話法詞

96. B: *Birgit kommer **desværre** altså hjem.
97. B: Birgit kommer altså **desværre** hjem.
98. B: *Birgit kommer **forhåbentlig** altså hjem.
99. B: Birgit kommer altså **forhåbentlig** hjem.
100. B: *Birgit kommer **sandsynligvis** altså hjem.
101. B: Birgit kommer altså **sandsynligvis** hjem.
102. B: *Birgit kommer **bestemt** altså hjem.
103. B: Birgit kommer altså **bestemt** hjem.

20. A: Jeg vil gerne have en kop kaffe.

B: Den er altså ikke varm længere.

sgu / altså : altså / sgu

104. B: Den er **sgu** altså ikke varm længere.
105. B: *Den er altså **sgu** ikke varm længere.

「聞き手志向」の心態詞 / altså : altså / 「聞き手志向」の心態詞

106. B: Den er **jo** altså ikke varm længere.
107. B: *Den er altså **jo** ikke varm længere.
108. B: Den er **nu** altså ikke varm længere.
109. B: *Den er altså **nu** ikke varm længere.

「話し手志向」の心態詞 / altså : altså / 「話し手志向」の心態詞

110. B: *Den er **nok** altså ikke varm længere.
111. B: Den er altså **nok** ikke varm længere.

112. B: Den er **vist altså** ikke varm længere.

113. B: *Den er **altså vist** ikke varm længere.

話法詞 / altså : altså / 話法詞

114. B: *Den er **desværre altså** ikke varm længere.

115. B: Den er **altså desværre** ikke varm længere.

116. B: *Den er **sikkert altså** ikke varm længere.

117. B: Den er **altså sikkert** ikke varm længere.

118. B: *Den er **sandsynligvis altså** ikke varm længere.

119. B: Den er **altså sandsynligvis** ikke varm længere.

120. B: Den er **måske altså** ikke varm længere.

121. B: Den er **altså måske** ikke varm længere.

122. B: *Den er **bestemt altså** ikke varm længere.

123. B: Den er **altså bestemt** ikke varm længere.

「聞き手志向」の心態詞である例文 19 と 20 の *altså* は例文 92, 94 および 112 において「話し手志向」の心態詞 *vel* と *vist* よりも後ろに位置している点において § 4.2 の予測に反している。また、例文 120 と 121 において心態詞の *altså* が話法詞 *måske* の前にも後ろに現われ得ることも予測に反している。

以下では、"志向" に関して中立な心態詞 *altså* の語順に関するテストを行なった後、この背景を探るために、本来の副詞、すなわち接続の副詞としての *altså* に注目して、中域におけるその位置を考察してみる。

4.5. "志向" に関して中立な心態詞 *altså* の語順に関するテスト

§ 3.2 にある例文 13 と 14 において *altså* の前後に ① *sgu*, ② 「聞き手志向」の心態詞 *da, dog, jo, nu, skam*, ③ 「話し手志向」の心態詞 *nok, vel, vist*, ④ 話法詞を挿入して文が成立するかどうかをテストした。

13. Nej, Steen – jeg kan *altså* ikke lide at blive fotograferet!

sgu / altså : altså / sgu

124. Nej, Steen – jeg kan **sgu altså** ikke lide at blive fotograferet!

125. *Nej, Steen – jeg kan **altså sgu** ikke lide at blive fotograferet!

「聞き手志向」の心態詞 / altså : altså / 「聞き手志向」の心態詞

126. Nej, Steen – jeg kan **jo altså** ikke lide at blive fotograferet!

127. *Nej, Steen – jeg kan **altså jo** ikke lide at blive fotograferet!

128. Nej, Steen – jeg kan **nu altså** ikke lide at blive fotograferet!

129. *Nej, Steen – jeg kan **altså nu** ikke lide at blive fotograferet!

130. Nej, Steen – jeg kan **skam altså** ikke lide at blive fotograferet!

131. *Nej, Steen – jeg kan **altså skam** ikke lide at blive fotograferet!

「話し手志向」の心態詞 / altså : altså / 「話し手志向」の心態詞

132. *Nej, Steen – jeg kan **nok altså** ikke lide at blive fotograferet!

133. Nej, Steen – jeg kan **altså nok** ikke lide at blive fotograferet!

134. ?Nej, Steen – jeg kan **vist altså** ikke lide at blive fotograferet!

135. *Nej, Steen – jeg kan **altså vist** ikke lide at blive fotograferet!

vist altså を含む文は、自分のことに関して vist を用いているという意味において普通ではないが、“ぼけた (senil)”人が口にする可能性がなくもないということである。

話法詞 / altså : altså / 話法詞

136. *Nej, Steen – jeg kan **desværre altså** ikke lide at blive fotograferet!

137. Nej, Steen – jeg kan **altså desværre** ikke lide at blive fotograferet!

138. *Nej, Steen – jeg kan **sikkert altså** ikke lide at blive fotograferet!

139. Nej, Steen – jeg kan **altså sikkert** ikke lide at blive fotograferet!

140. *Nej, Steen – jeg kan **sandsynligvis altså** ikke lide at blive fotograferet!

141. Nej, Steen – jeg kan **altså sandsynligvis** ikke lide at blive fotograferet!

142. *Nej, Steen – jeg kan **måske altså** ikke lide at blive fotograferet!

143. Nej, Steen – jeg kan **altså måske** ikke lide at blive fotograferet!

144. *Nej, Steen – jeg kan **bestemt altså** ikke lide at blive fotograferet!

145. Nej, Steen – jeg kan **altså bestemt** ikke lide at blive fotograferet!

14. Ja, det må du altså undskyldte.

sgu / altså : altså / sgu

146. Ja, det må du **sgu altså** undskyldte.

147. *Ja, det må du **altså sgu** undskyldte.

「聞き手志向」の心態詞 / altså : altså / 「聞き手志向」の心態詞

148. Ja, det må du **jo altså** undskyldte.

149. *Ja, det må du **altså jo** undskyldte.

150. Ja, det må du **da altså** undskyldte.

151. *Ja, det må du **altså da** undskyldte.

152. Ja, det må du **nu altså** undskyldte.

153. *Ja, det må du **altså nu** undskyldte.

154. Ja, det må du **skam altså** undskyldte.

155. *Ja, det må du **altså skam** undskyldte.

「話し手志向」の心態詞 / altså : altså / 「話し手志向」の心態詞

156. Ja, det må du **vel altså** undskyldte.

157. *Ja, det må du **altså vel** undskyldte.

話法詞 / altså : altså / 話法詞

158. *Ja, det må du **heldigvis** altså undskylde.
159. Ja, det må du **altså heldigvis** undskylde.
160. *Ja, det må du **desværre** altså undskylde.
161. Ja, det må du **altså desværre** undskylde.
162. *Ja, det må du **sikkert** altså undskylde.
163. Ja, det må du **altså sikkert** undskylde.
164. *Ja, det må du **forhåbentlig** altså undskylde.
165. Ja, det må du **altså forhåbentlig** undskylde.
166. *Ja, det må du **sandsynligvis** altså undskylde.
167. Ja, det må du **altså sandsynligvis** undskylde.
168. *Ja, det må du **bestemt** altså undskylde.
169. Ja, det må du **altså bestemt** undskylde.

以上のことから，“志向”に関して中立な心態詞である例文 13 と 14 の altså も語順モデル 4 の③の位置に現れることがわかる。

4. 6. 本来の副詞，すなわち接続の副詞としての altså の語順に関するテスト

§ 2 にある例文 2 において本来の副詞 altså の前後に ① sgu, ② 「聞き手志向」の心態詞 da, dog, jo, nu, skam, ③ 「話し手志向」の心態詞 nok, vel, vist, ④ 話法詞を挿入して文が成立するかどうかをテストした。

2. En anelse varme var der stadig i ham. Han var altså ikke død.

sgu / altså : altså / sgu

170. Han var **sgu** altså ikke død.
171. *Han var **altså sgu** ikke død.

「聞き手志向」の心態詞 / altså : altså / 「聞き手志向」の心態詞

172. Han var **jo** altså ikke død.
173. *Han var **altså jo** ikke død.
174. Han var **da** altså ikke død.
175. *Han var **altså da** ikke død.
176. Han var **nu** altså ikke død.
177. *Han var **altså nu** ikke død.
178. Han var **dog** altså ikke død.
179. *Han var **altså dog** ikke død.

「話し手志向」の心態詞 / altså : altså / 「話し手志向」の心態詞

180. *Han var **nok** altså ikke død.
181. Han var **altså nok** ikke død.

話法詞 / altså : altså / 話法詞

182. *Han var **heldigvis** altså ikke død.
 183. Han var **altså heldigvis** ikke død.
 184. *Han var **desværre** altså ikke død.
 185. Han var **altså desværre** ikke død.
 186. *Han var **sikkert** altså ikke død.
 187. Han var **altså sikkert** ikke død.
 188. *Han var **forhåbentlig** altså ikke død.
 189. Han var **altså forhåbentlig** ikke død.
 190. *Han var **sandsynligvis** altså ikke død.
 191. Han var **altså sandsynligvis** ikke død.
 192. Han var **måske** altså ikke død.
 193. Han var **altså måske** ikke død.
 194. *Han var **bestemt** altså ikke død.
 195. Han var **altså bestemt** ikke død.

例文 2 の altså は本来の副詞なので、中域においては否定辞の右側に置かれるのではないかと予測されるが、テストの結果、「話し手志向」の心態詞 nok よりも左側に置かれ（例文 181），また例文 192 の måske を除く話法詞よりも左側に置かれる（例文 183, 185, 187, 189, 191, 193, 195）ことがわかった。これは § 4.2 では予測しなかつたことである。

一方、Mikkelsen (1911: 650-651) は前置詞句等をも含んだ副詞的語句の相互語順を以下のようであるとしている。

- (1)/(2)/(3)/(4)/(5)/(6)/(7)/(8)/(9)/(10)/(11)/(12)/(13)/(14)/(15)/(16)/(17)/(18)
- (1) svage ord uden hensyn til betydningen <その意味に関係なく弱い語>
 - (2) biord og forholdsordsled, der betegner årsag, følge og omstændighed <「原因」, 「結果」, 「状況」を表す副詞と前置詞句>
 - (3) beklagelsesbiord <「遺憾」の副詞>
 - (4) biord og forholdsordsled, der betegner forvisning, formodning og forsikring <「確信」, 「推量」, 「保証」を表す副詞と前置詞句>
 - (5) indrömmelsesbiord <「譲歩」の副詞>
 - (6) ordensbiord <「順序」の副詞>
 - (7) *egentlig* og *i virkeligheden* <副詞 *egentlig* <本来, 本当は> と *i virkeligheden* <実際には>>
 - (8) modsætningsbiord <「対立」の副詞>

- (9) biord, der betegner udvidelse og indskrænkning <「拡張」, 「縮小・制限」を表す副詞と前置詞句>
- (10) biord, der betegner overensstemmelse <「一致」を表す副詞>
- (11) en del forholdsordsled, der står i løsere forhold til omsagnet, som *efter ens mening, i følge ens ordre, uden ens tilladelse, for enhver pris* <efter ens mening <～の考え方では>, ifølge ens ordre <～の命令に従つて>, uden ens tilladelse <～の許可なしに>, for enhver pris <いかなる犠牲を払つても, 是が非でも> のような, 陳述とゆるやかな関係にあるかなりの数の前置詞句>
- (12) nægtende ord <否定辞>
- (13) tidsudtryk <時の表現>
- (14) *pludselig, på én gang, med ét* <副詞 pludselig <急に, 突然>, 前置詞句 på én gang <一度に, 同時に ; 突然>, med ét <突然>>
- (15) mådesudtryk <様態の表現>
- (16) gradsudtryk <程度の表現>
- (17) stedsudtryk <場所の表現>
- (18) forholdsordsled, der ikke hører til nogen af de tidligere nævnte grupper <上で述べたグループのどれにも属さない前置詞句>

Mikkelsen は上記の相互語順に対して 46 個の例文を挙げているが, *altså* を含むこれら 46 個の例文中におけるその順番から見ても, *altså* が (2) の「原因」, 「結果」, 「状況」を表す副詞と前置詞句のグループに属す副詞であることは明白である。 *altså* のほかに, この (2) のグループに属するものには, Mikkelsen の挙げる 46 個の例文から示すと, *følgelig* <したがって, その結果>, *af den grund* <それゆえ, その理由から>, *i så fald* <その場合>, *under alle omstændigheder* <どんなことがあっても, いずれにしても> がある。また, (1) のグループには心態詞 *sgu, da, dog, jo, nu, skam, nok, vel, vist* が属すと考えられ, 一方, 話法詞は (3) 「遺憾」の副詞, (4) 「確信」, 「推量」, 「保証」を表す副詞と前置詞句, (5) 「譲歩」の副詞がこれに相当すると思われる。なお, (3), (4), (5) として Mikkelsen の示す例文中に見られるものには以下のようなものがある。

- (3) *desværre* <残念ながら>
- (4) *muligvis* <もしかすると, あるいは…かもしれない>, *formodentlig* <おそらく, どうやら, たぶん>, *rimeligtvis* <たぶん, たいてい, おもうに>, *virkeligt* <ほんとうに>
- (5) *rigtignok* <もちろん, むろん, いうまでもなく>

以上のことから、本来の副詞としての *altså* は心態詞の右側で、話法詞の左側に置かれると言えよう。そして § 4.3 の「話し手志向」の心態詞 *altså* と § 4.4 の「聞き手志向」の心態詞 *altså* と § 4.5 の“志向”に関して中立な *altså* も、少數の例外があるものの、本来の副詞としての *altså* 同様、心態詞の右側で、話法詞の左側に置かれると言えよう。そうすると、例文 68, 70, 92, 94, 112, 156 において *altså* が「話し手志向」の心態詞 *vel*, *vist* の右側に位置していることもうなづけることである。つまり、*altså* はその意味・機能に関係なく同じ位置に現われると言えそうである。

ただし、*altså* の「話し手志向」の心態詞、「聞き手志向」の心態詞、“志向”に関して中立な心態詞、本来の副詞としてのいずれの場合においても、「話し手志向」の心態詞 *nok* との位置関係が説明できないものとして残ることに言及しておかねばならない：

- 32. *Nej, Steen – jeg kan **nok altså** ikke lide at blive fotograferet!
- 33. Nej, Steen – jeg kan **altså nok** ikke lide at blive fotograferet!
- 90. B: *Birgit kommer **nok altså** hjem.
- 91. B: Birgit kommer **altså nok** hjem.
- 110. B: *Den er **nok altså** ikke varm længere.
- 111. B: Den er **altså nok** ikke varm længere.
- 132. *Nej, Steen – jeg kan **nok altså** ikke lide at blive fotograferet!
- 133. Nej, Steen – jeg kan **altså nok** ikke lide at blive fotograferet!

以上の結果、中域における心態詞および話法詞と *altså* の語順モデルは以下のようになる。

話し手 志向	聞き手 志向	話し手 志向	<i>altså</i>	話し手 志向	/ 話法詞
sgu	da, dog, jo, nu, skam	vel, vist		nok	

なお、上表中の *altså* は本来の副詞、「聞き手志向」の心態詞、「話し手志向」の心態詞、および“志向”に関して中立な心態詞である。

以上からわかるることは、心態詞は確かに中域において話法詞の前に置かれるが、心態詞そのものの中では「聞き手志向」の心態詞と「話し手志向」の心態詞の語順にはなんら法則性はなさそうだということである。なお、Mikkelsen (1911: 650-651) の言う (1) 「弱い語」には *nok* も含めた心態詞が属すと思われるが、*nok*

の前に置かれる 2 音節語の *altså* は「弱い語」とは言えないであろう。あるいは本来の副詞としては Mikkelsen の (2) のグループに属すと思われる *altså* の後ろに「弱い語」と思われる *nok* が位置することが説明できることなのかも知れない。いずれにせよ、解明すべき問題はあまた残っている。

5. おわりに

以上、*altså* の主に心態詞的用法の意味・機能と中域における位置について見てきた。

心態詞的用法の *altså* の意味・機能に関しては、DTS の *aber* の記述に倣って、§3.2 と §3.3 をひとまとめにし、さらに §3.4 を加えて

(話し手の主観的心情を表して) (a) 意味を強めて [“志向”に関して中立],
(b) 驚きを表して [話し手志向], (c) 遺憾、不満、苛立ちを表して [話し手志向], (d) 非難・咎めを表して [聞き手志向], (e) 聞き手に計画の変更を促して [聞き手志向]

とすることができるであろう。

中域における位置に関しては、心態詞 *altså* は 1 音節語の心態詞 *sgu*, *nok*, *vel*, *vist*, *da*, *dog*, *jo*, *nu*, *skam* とは異なり、本来の副詞としての *altså* と同じ位置に置かれることがわかった。

また、「話し手志向」の心態詞 *nok* は他の「話し手志向」の心態詞 *sgu* はもとより *vel* や *vist* とも異なる位置に置かれることもわかった。

また、筆者はコーパスを調べていて、*måske* *nok* という語順を含む例文が非常に多く見られることが気にかかっていた。つまり、話法詞 *måske* + 心態詞 *nok* では語順モデルとは合致しないのである。*måske* に相当すると思われるドイツ語の *vielleicht* に、前域と中域に現われ、強勢のある話法詞の変異体と、中域にしか現われず、強勢のない心態詞の変異体があると言われている（岩崎 1998: xix-xxi）ことから、デンマーク語の *måske* にも話法詞と心態詞の 2 つの変異体があるのでないかという思いを抱き始めていたのであるが、それを裏付ける情報がつい最近寄せられた。デンマーク語学の碩学 Lars Heltoft ロスキレ大学教授は本年(2006 年)10 月 19 日の授業において、前域にも中域にも現れる話法詞²¹ *måske* は第 2 音節に強勢があり、*stød* もある [mo'sge', må'sge'] という発音であるが、それとは別に、強勢と *stød* を失った [mosgə, måsgə] あるいは強勢は保たれている ['mosgə, 'måsgə] という発音で、中域にしか置かれない心態詞²² *måske* の用法が現われつつある傾向にあるということに言及されたそうである。²³ なお、その

場合の心態詞 *måske* の意味・用法は現段階では不明である。このように *måske* に心態詞と話法詞の変異体があるのであれば、§ 4.4 の例文 120, 121 と § 4.6 の例文 192, 193 も納得のいく語順になっていると考えられるかも知れないが、詳細は今後の研究に待たねばならない。

120. B: Den er **måske** altså ikke varm længere. [måske は心態詞？]
121. B: Den er **altså** **måske** ikke varm længere. [måske は話法詞？]
192. Han var **måske** altså ikke død. [måske は心態詞？]
193. Han var **altså** **måske** ikke død. [måske は話法詞？]

デンマーク語の心態詞の研究はドイツにおける心態詞の研究に比して大きく遅れをとっている感があるが、ロスキレ大学でこの(2006年)秋学期から Heltoft 教授を中心として様々なプロジェクトが計画されているようである。²⁴ 大きな成果を期待したいものである。

(2006. 11)

注

1. 辞書の略記については本稿末の「参考文献」表を参照。
2. ドイツ語では Modalpartikel/Abtönungspartikel と呼ばれ、
(1) Heute ist *doch* Sontag. (きょうは日曜日じゃないか), (2) Hast du *denn* einen Führerschein? (君は免許証を持っているのかい?), (3) Kommen Sie *nur* herein! (さあお入りなさいよ) の *doch*, *denn*, *nur* のように、文を談話状況 (Redesituation) に位置づけたり、文内容に対する話し手と聞き手の心的態度 (Einstellung) を表したり、文の発話内行為 (\Rightarrow Illokution) を特定化することをその機能とする語をいう (川島ほか 1994 : 605)。
心態詞は、文の独立した文成分ではないから、文頭に置くことができない (岩崎 1998 : xxi)。また、ドイツ語では心態詞には、ふつう文のイントネーション上のアクセントがない (岩崎 1998 : xx)。
なお、ドイツ語の Modalpartikel/ Abtönungspartikel, あるいはデンマーク語の modalpartikel の partikel は、一つには副詞、前置詞、接続詞などを含む不变化詞を指し、一つには‘小辞’をも意味するが、本稿で‘心態詞’という用語を用いるときには、心態詞はあくまでも副詞の一用法として考えているのであるから、心態詞とすると副詞と同一レベルのものとして理解される恐れがあり、不都合である。したがって、‘心態辞’とでもするのが好ましいのであろうが、本稿では岩崎 (1998) や川島ほか (1994) に倣い、日本のドイツ語学で用いられている用語である‘心態詞’を用いることにする。
3. (1), (2) ... といったカッコ付きの意味分類番号ならびに例文番号は筆者による。
4. 周知のごとく、この文は正しくは ... var jeg altså inde at snakke med studievejlederen

のように *og* ではなく、不定詞マーカーの *at* でなければならない。つまり、話したことばでは *og* も *at* もともに [ɔ] と発音されることから、綴りに混同が生じているのである。

5. 例文 10, 11, 12 は Jensen (2000: 72) の例文 29, 30, 31 に相当。
6. Jensen (2000) は Lars Heltoft の修正「語順表 (sætningsskema)」に倣って「文副詞的語句領域」SA (= sætningsadverbialts plads) と呼んでいるが、これは「文副詞的語句のみが置かれる領域」と読むのか、それとも「文副詞的語句も置かれる領域」と読むのか、いささか誤解を招く名称のように思われる。というのも、この領域に置かれる時の副詞 *allerede*, *endnu* や否定辞 *ikke*, *aldrig* などは命題の一部であり、文副詞的語句ではないからである。したがって、筆者は「文副詞的語句領域」という用語を用いるのに抵抗がある。
7. *altså* の参考として第一に挙げるべきドイツ語の単語は *also* であろう。*altså* はそもそもドイツ語の *also* をモデルにして [alt + så <すべて十そのようである>] から形成されたものだからである。しかし、Jensen (2000: 62ff.) によると *altså* が最初に記録されたのは 1743 年であり、以来 1800 年代初頭まで、現代ドイツ語ではいまだに保たれている <このように、以下のように> の意味で用いられた。また同時に、ドイツ語の *also* のもうひとつの意味、<したがって、それゆえ、つまり等々> の接続の意味でも用いられてきた。しかしながら、*altså* の心態詞的用法はデンマーク語独自の発展であり、ドイツ語の *also* にも心態詞的用法はあるものの、*altså* の心態詞的用法に対応する用法はない。
8. もっとも、*altså* は本来の副詞としての用法においても、例文 2, 3, 4, 7 のように中域にある場合には強勢が置かないので、強勢がないこと自体が *altså* が心態詞である証となるとは言えないであろう。
9. 例文 16, 17, 18 は筆者の同僚の Bente Høilund 氏による。
10. Andersen (1982: 91) はプールの代数の記号を用いて説明している。
Altså signalerer, at q muligvis er en relevant oplysning for A i forhold til p. Idet p altid synes at angive eller antyde en plan, en fremtidig handlingsmulighed, fremføres q som en oplysning der muligvis vil få A til at ændre denne plan.
11. Davidsen-Nielsen は心態詞 (modalpartikel) とは呼ばず、単に小辞 (småord) と呼んでいる。
12. *da*, *jo*, *nu*, *skam* の訳は便宜的である。Davidsen-Nielsen (1993: 3-5) によると、これらの意味は、それぞれ、*da* は聞き手に反対し (uenighed med modtageren), 主観的に距離を置くもの (subjektivt afstandtagende) であり、聞き手に意見の合意を求める (konsensussøgende) ものである。*jo* は容認を含む驚き (overraskelse (inkl. "accepteret")) を意味する。*nu* は客観的に訂正する (objektivt korrigerende) ものである。*skam* は明確にする (afklarende) 機能を持っている。
13. *vel*, *vist*, *nok* の訳は便宜的である。Davidsen-Nielsen (1993: 3-5) によると、これらの意味は、それぞれ、*vel* は推量に加えて支持・裏づけを求める (antagende og bekræftelsessøgende) 機能を有する。*vist* は推量に加えて参照 (antagende og henvisende) の機能を有する。*nok* は推量 (antagende) の機能を有する。
14. Davidsen-Nielsen (1993: 3-5) によると、*sgu* は強調的 (emfatisk/ understregende) で

あり、*dog* は強調、非難・咎め、驚き (emfatisk, bebrejdende, overrasket) を表す。

15. このことは、ある同じ形態の副詞に命題に含まれるものと、含まれないものの両方がある場合に特に明瞭であると言う (Jensen 2000: 198-199) :

Hun kan **sikkert ikke** køre med to børn på cyklen.

〈彼女は子どもを二人乗せて自転車ではきっと行けないでしょう。〉

Hun kan **ikke sikkert** køre med to børn på cyklen.

〈彼女は子どもを二人乗せて自転車では安全に行けない。〉

Jeg har **omhyggeligt ikke** læst om den sag.

〈私はその件について読まないように気を配った。〉

Jeg har **ikke omhyggeligt** læst om den sag.

〈私はその件について丁寧には読んでいない。〉

また、否定辞の右側に命題に含まれない *lige* と *rigtig* が置かれている次の例文を示すことで、否定辞を境目にして左側に命題に含まれないもの、右側に命題に含まれるもののが置かれるという規則にも例外があることを示している (Jensen 2000: 199) が、下の文中の *lige* と *rigtig* が命題に含まれない、どのような意味を表しているのか不明である。

Jeg har **ikke** **lige** set den.

Han har **ikke** **rigtig** lyst til det.

16. 話法詞とは、

伝統的には副詞の一部に位置づけられてきたが、具体的には何を話法詞とするかは学者によって意見が異なる。一般的には、事実判断にかかるものとして *wahrscheinlich* (たぶん), *vermutlich* (おそらく), *vielleicht* (ひょっとすると), *sicher* (きっと) など; 値値判断にかかるもととして *leider* (残念ながら), *glücklicherweise* (幸運にも), *dummerweise* (愚かにも), *freundlicherweise* (親切にも) などが挙げられる。〔中略〕この他にその文の命題 (⇒ Proposition) の事実性を強調する *wirklich*, *tatsächlich* (本当に) など、伝聞などを表す *angeblich*, *vergeblich* (~ということだ) なども話法詞とされることが多い (川島ほか 1994 : 607)。

話法詞は心態詞とは異なり、独立した文成分として文頭に置くこともできるし、文のイントネーション上のアクセントも置かれる (岩崎 1998 : xxi).

Der hat *vielleicht* einen Bart! 〈あいつのひげは、まったく珍妙だなあ。〉

[*vielleicht* は心態詞でアクセントなし]

Der hat *vielleicht* einen Bart. 〈あいつ、もしかしたらひげを生やしているかもしれない。〉 [*vielleicht* は話法詞でアクセントあり]

Vielleicht hat der einen Bart. 〈もしかしたら、あいつ、ひげを生やしているかもしれないぜ。〉 [*vielleicht* は話法詞でアクセントあり]

また、岩崎 (1998 : xvii) によると、話法詞の特徴として挙げられることの一つに、それが *ja*, *nein*, *doch* などと同じように、単独で決定疑問文の答えになり得るということがある。〔ちなみに、*ja*, *nein*, *doch* はそれぞれデンマーク語の *ja*, *nej*, *jo* に相当する。また、決定疑問文とはデンマーク語文法では全体疑問文と呼ばれる (間瀬 1998 : 20 ; Jacobsen・間瀬 2005 : 38). 〕

Meinst du, daß Luise die Prüfung besteht? – Hoffentlich.
<ルイーゼは試験に合格すると思うかい？ — そうあってほしいね。>

Kommst du auch mit, Inge? – Vielleicht.

<インゲ、きみもいっしょに来るのかい？ — どうしようかな。>

Kommt Hans morgen zurück? – Vermutlich.

<ハンスは、あす戻ってくるのかい？ — おそらくね。>

17. 語順モデルの表中においては、「話し手志向」とは「話し手志向」の心態詞のことであり、「聞き手志向」とは「聞き手志向」の心態詞のことである。
18. da, dog, jo, nu, skam の相互語順に関しては未だ不明である。
19. nok, vel, vist の相互語順に関しては未だ不明である。
20. 被験者は筆者の同僚の Bente Høilund 氏である。
21. Heltoft 教授は話法詞 (modalord) という用語は用いず、文副詞的語句 (sætningssadverbium) という用語を用いている。
22. Heltoft 教授はふつうは心態詞 (modalpartikel) という用語は用いず、単に小辞 (partikel) という用語を用いているようである。
23. 本学大学院博士後期課程 2 年生で、現在ロスキレ大学に留学し、Lars Heltoft 教授の指導を仰いでいる大辺理恵さんの報告による。

また、筆者の同僚の Høilund 氏によると、Det kan jeg nok. <それは私はできるでしょう。> という文に måske を挿入する場合、måske は nok の前と後ろの両方に置くことができ、前に置く場合には måske に強勢がなく、後ろに置く場合には måske に強勢があると言う：

Det kan jeg, måske nok.

Det kan jeg nok må'ske.

ただ、この場合の måske の意味は（さらには nok の意味も）不明である。

24. Roskilde 大学のホームページ <http://www.ruc.dk/isok/Fag/dansk/Semesterplaner/> からダウンロードした Semesterplan - Efterår 2006 (http://www.ruc.dk/isok/Fag/dansk/Semesterplaner/seminsterplan_E_2006/) (Pdf ファイル <http://www.ruc>) を参照。

Om brugen af det danske adverbium *altså* som modalpartikel og om dets placering i centralfeltet

Toshihiro Shintani

Resumé

Jeg har i denne artikel analyseret brugen af det danske adverbium *altså* som modalpartikel vha. Andersen (1982), Davidsen-Nielsen (1993) og Jensen (2000) samt

diverse ordbøger, især *Den Danske Ordbog*, Bergstrøm-Nielsen et al.s *Dansk-tysk ordbog*, Vinterberg og Bodelsens *Dansk-engelsk ordbog* og en stor tysk-japansk ordbog, og prøvet at angive japanske oversættelser:

Altså (som modalpartikel) udtrykker talerens subjektive holdninger:

(a) forstærkende [neutralt i orienteringen]:

13. *Nej, Steen – jeg kan altså ikke lide at blive fotografet!*

[Nummereringen efter selve artiklen]

14. *Ja, det må du altså undskynde.*

(b) udtrykker forbavelse [afsender-orienteret]:

18. *De kører altså så hurtigt, de unge mennesker.*

(c) udtrykker beklagelse, utilfredshed eller irritation [afsender-orienteret]:

17. *Nu må vi altså have lavet det køleskab!*

(d) bebrejdende [modtager-orienteret]:

15. *Nu tier du altså stille!*

(e) opfordrer til ændring af modtagerens planer [modtager-orienteret]:

20. A: *Jeg vil gerne have en kop kaffe.*

B: *Den er altså ikke varm længere.*

23. A: *Jeg ved ikke om den sidste bus er gået.*

B: *Jeg kan altså godt have en til i min bil.*

Hvad placeringen af modalpartiklen *altså* i centralfeltet angår, kan der vha. Davidsen-Nielsen (1993) og Mikkelsen (1911) og mine test fra § 4.3 – § 4.6 siges at adverbiet *altså*, om det så fungerer som almindeligt adverbium, dvs. konnektivt adverbium, eller som modalpartikel, og om det så er neutralt i orienteringen eller afsender-orienteret eller modtager-orienteret, placeres i centralfeltet efter modalpartiklerne *sgu, da, dog, jo, nu, skam, vel, vist*, men før modalpartiklen *nok* og modalordene [tysk: Modalwort. svarer til sætningsadverbierne], og det illustreres som følger:

Placeringen af *altså* i centralfeltet

AO	MO	AO		AO
<i>sgu</i>	<i>da, dog, jo, nu, skam</i>	<i>vel, vist</i>	<i>altså</i>	<i>nok</i>

AO = afsender-orienteret, MO = modtager-orienteret

参考文献

- Andersen, Torben. 1982. "Modalpartikler og deres funktion i dansk", *Danske Studier* 1982, 86-95. København: Akademisk Forlag. (TAと略す)
- Davidsen-Nielsen, Niels. 1993. "Det er sgu da nu vist en misforståelse", *Nyt fra Sprognævnet* 1993/3. 1-8. København: Dansk Sprognævn.
- Jensen, Eva Skafte. 2000 (upubliceret). *DANSKE SÆTNINGSADVERBIALER OG TOPOLOGI I DIAKRON BELYSNING*. Ph.d.-afhandling i dansk grammatik ved Institut for Nordisk Filologi, KU.
- Mikkelsen, Kr. 1975 (1911). *Dansk Ordføningslære*. København: Hans Reitzels Forlag.

- 岩崎英二郎編. 1998. 『ドイツ語副詞辞典』. 東京：白水社.
- 川島淳夫ほか編. 1994. 『ドイツ言語学辞典』. 東京：紀伊國屋書店.
- Jacobsen, Henrik Galberg 編・間瀬英夫訳・注. 2005. 「デンマーク語文法術語集 — デンマーク国立国語審議会・研究所が薦める術語 —」. 間瀬英夫編著訳. 『デンマーク語学ハンドブック — デンマーク語文法術語集 —, — デンマーク語音声表記のための音声記号 —』, 前半の 1-98. 大阪外国語大学.
- 間瀬英夫(訳). 1998. 「デンマーク語文法用語集 — Dansk Sprognævn が薦める用語 —」. *IDUN* Vol. 13, 1-54.
- 新谷俊裕. 2001. 「デンマーク語の副詞 *ellers* の意味と用法」, *IDUN* Vol. 14, 19-62.

辞書

- DER = Axelsen, Jens. 1995. *Dansk-engelsk ordbog*. 10. udg. (Gyldendals røde ordbøger) København: Gyldendal.
- DDO = Det Danske Sprog- og Litteraturselskab. 2003-2005. *Den Danske Ordbog*. Bind 1- Bind 6. København: Gyldendal.
- DES = Vinterberg, Hermann & C. A. Bodelsen. 1990. *Dansk-engelsk ordbog*. 3. udg. ved Viggo Hjørnager Pedersen. (Gyldendals store ordbøger) København: Gyldendal.
- DTS = Bergstrøm-Nielsen, Henrik, Henrik Lange & Henry Verner Larsen. 1991. *Dansk-tysk ordbog*. (Munksgaards store ordbøger) København: Munksgaard.
- ODS = Det Danske Sprog- og Litteraturselskab. 1975 (1922). *Ordbog over det danske Sprog*. 4. bind. København: Gyldendal.
- 独和大 = 国松孝二ほか編. 1990 (1985). 『小学館 独和大辞典（コンパクト版）』. 東京：小学館.